

☆ 第12回 府中療育センター祭特集 ☆

今年のセンター祭では、利用者の方のイベント会場での参加時間が限られ、大勢で集合する機会も控えたため、病棟訪問による催しを企画しました。1つは例年舞台で行われる「人生の節目を祝う会」で、それぞれ対象の方の病棟へ院長が訪問する形式で実施しました。短い時間でしたが心をこめて、それぞれの方のこれまでとこれからに祝福とエールを送りました。今年のお祝いの方全13名は、展示スペースでも紹介されました。もうひとつはゲームコーナーによる「ひもくじ」ワゴンです。2日間に分けて全病棟を訪問し、「何が当たるかな。」と運命の(?)くじ引きを楽しみました。

2日間のイベントは、渡辺事務長による「閉会のあいさつ」で締めくくりました。これも館内放送で行い、皆で集まれない中、同じ時間に同じ言葉を聞いて一緒にお祭りの終了を感じる事ができました。

移転後初めての、更に新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの運営となった今開催、いつもとは一味違うセンター祭にはなりましたが「離れていても心はひとつ」、利用者の皆さん、職員と一緒に、工夫し協力し合い、楽しい時間を作ることができました。感染防止に御理解、御協力いただいた御家族の皆様、地域作業所の皆様をはじめ、開催に当たり御配慮いただいたすべての皆様に感謝いたします。来年こそは、地域の方へのお披露目も含め、開かれた府中療育センター祭を開催できることを心から願っています。

【協力団体（敬称略、50音順）】

社会福祉法人あけぼの福祉会「ワークセンターこむたん」（府中市）、
社会福祉法人ひばり福祉会「食彩さしすせそ」（府中市）、都立府中けやきの森学園
～御協力ありがとうございました～

社会見学 ～通所～

通所主任技術員 加藤 美佳子

通所では、一人が年に1回社会見学に行きます。今年は新型コロナウイルスの影響もあり、密を避けるため行先の選定には苦慮しています。今回は、今年オープンになった立川のグリーンプリングスに行ってきました。広々とした芝生がありリラックスした時間を過ごすことができました。また、当日は様々なもので作られた「かお展」が開催されており、ほんわかした気持ちになりました。

一日も早く、自由にお出かけができるようになってほしいですね。



〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042(323)5115
FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧ください*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

府中療育センター新聞

東京都立府中療育センター 第514号 発行日 令和2年10月31日

運動会を開催しました！！ ～通園～

通園主任技術員 土屋明子

10月18日（日）、移転後、初めての通園運動会、午前中は園庭、午後は通園ホールで行いました。

午前の部は昨年からの継続児2クラスが参加しました。初めに年長児さんたちが「フレイフレー」の合図に合わせて、鈴とタンバリンで応援合戦を行い、「これから運動会を始めます。オー！」の掛け声で運動会が始まりました。2番目の競技はさくら組。ジャングルの中を探検して行き、川を乗り越え、草むらや雨の中を通り、最後は木からバナナを採っておさるさんにあげることができました。3番目の競技はゆり組。いつも遊んでいる巧技台やすべり台、ワンロールを使ってゴールまで行き、1枚ずつパネルを貼りました。みんなでつなぎ合わせたパネルは、遠足の時に乗った大型バスになりました。4番目は「おととつと、ディスタンス、ディスタンス」という保護者競技で、お父さん、お母さんたちが距離を保ちながら、細長く丸めた新聞紙に輪っかを通して、次の人に渡していきます。少しずつ移動しながら行う競技に、真剣に、そして楽しそうに参加されていました。他にも景品を探す親子競技や毎日練習してきた踊り「へんしんぐるぐるぱ！」で盛り上がりました。



午後の部は新入園児2クラスの参加で、「ガンバリマン」の歌、「どうぶつ体操」で準備体操をした後に、クラス競技「レッツゴー！おもほり」。いつも遊んでいるマット坂を上り下りし、毛布ブランコや巧技台を乗り越えて、最後は畑からおもほりを引き抜きました。他にも親子で玉入れをしたり、「へんしんぐるぐるぱ！」を踊り、楽しいひとときを過ごしました。

コロナ対策を講じながらの初めての運動会でしたが、保護者の皆様の応援に囲まれ、いつも以上に力を発揮したお子さんや緊張してしまったお子さん等々、いつもとは違うお子さんの様子を皆様に見ていただけたのではないかと思います。開催方法や周辺住民への周知、当日のお手伝い等々、ご協力いただきました職員の皆様、ありがとうございました。



☆ 第12回 府中療育センター祭特集 ☆

生活療育支援科 石田泰美



病棟のパネル展示



開会のあいさつ練り歩きの様子



ぴっころかぶりちおさんによる
絵本コンサート



PPPさんによる
パフォーマンス

10月23日（金）、24日（土）に、「府中療育センター祭」（以下「センター祭」）を実施しました。府中療育センターが移転し多摩療育園と一緒に初めての開催です。新型コロナウイルス流行のため感染予防対策を講じた上での運営で、地域の方の来訪やボランティアの方の協力、入所、通所のご家族の参加は中止とさせていただきます。イベントスペースへの参加は、通園、通所、入所と部門ごとに参加時間を振り分けて、入所部門は更にフロアごとで時間帯を区切り、地域作業所等の外部出店（2店舗）にはシールドを設けました。いつもとはちょっと違うセンター祭でしたが、その様子をご報告いたします。

23日（金）は生憎の雨でしたが、澁谷院長による初の館内放送での開会のあいさつから始まりました。お馴染みキャラクターメタセこいやんを先頭に、リラックマや逆立ちピエロ等の着ぐるみを着た職員一行が、楽器を片手に各階のベランダを練り歩き、窓越しに開会をアピールしました。

多目的ホールでは、大画面に通園、通所、各病棟の紹介ビデオが流れ、それぞれの部署の雰囲気や個性が味わえました。恒例の舞台発表も今年はビデオ映像で、くぬぎ分教室と3B病棟は劇、1A病棟は手洗い体操、2D病棟はハンドベル演奏、通所は新しい通所の紹介を披露しました。渾身の作品はどれも心温まり、感動と元気をいただきました。

また、通園と通所には「ぴっころかぶりちお」の皆さんが訪問し、絵本コンサート「あかずきん」をピアノとバイオリンの素敵な演奏で表現しながら読み聞かせてくださいました。利用者の皆さんは、おおかみの場面などドキドキしながら、引き込まれるように熱心に聞いて、観ていらっしゃいました。

24日（土）の多目的ホールでは、府中けやきの森学園の和太鼓部の皆さんが、コロナ流行で練習時間もなかなか取れない中、見事なリズムと動きで胸に響くすばらしい演奏をビデオに収めて披露してくださいました。また、入所フロアの各参加時間帯に、パーカッション・パフォーマンスのプレーヤー「PPP」の皆さんが太鼓やシロフォンをはじめ様々な打楽器を使い、笑いあり、迫力ありの楽しい演奏を披露してくださいました。コミカルな動きに笑い声やワクワクさせる演奏に身を乗り出す利用者の方の姿がみられました。

次に、イベント会場の様子もお知らせしましょう。食べ物コーナーでは、アイスクリームやおかき、わたあめ等個包装されたお菓子やパックに入ったジュース等を提供しましたが、「さて、どれにしようかな」と嬉しそうな、困ったような表情で職員を見る利用者の方をお見かけしました。事前注文のデリバリーサービスにも取り組み、多くの利用者に届けました。ゲームコーナーでは金色に輝くピンを使った「スターボウリング」と送風機を利用したスマートボール「ドレミファボール」を開催、ボールにピンがぶつかった時の音がリアルな迫力あるボウリングはストライクが続出して大盛り上がり、「ドレミファボール」は、押しやすいスイッチに大きくて見やすいボード、玉が落ちたところにあるスイッチにアニメでお馴染みの効果音等が仕込んであり、多くの利用者を楽しませていました。全体制作・感覚刺激コーナーでは、新しくできたスヌーズレン室の体験やフォトスタジオ「Go To トラベル」で、ペンギンのいる南極、古都の紅葉、南の島等お好みの風景の中に入り込んでの記念写真撮影を行いました。イベント日に先立って実施した「シールラリー」は、日本の観光名所にちなんだクイズツアーで多くの方が参加し、全体制作「Go To フェス」の文字とメッセージはイベント会場の入り口に飾られました。ICT（院内感染制御委員会）による新型コロナウイルスやマスクの機能の説明とデコマスクを作ろうコーナー、摂食嚥下ワーキンググループによる食べることに関するクイズ（スプーンの使い方やとろみの具合等）は、皆さん学びながら楽しく取り組んでいました。また、コロナ流行の中、細心の注意を払って参加して下さった「食彩さしそせそ」「ワークセンターこむたん」の皆さんが作ったパンやコロケ、プリン等は大人気で、お祭りの雰囲気大いに盛り上げていただきました。2階の廊下一面に飾られた各部署の製作展示は、それぞれ力強く、温かく、面白く、見る人の心を和ませてくれました。



祭開催中のセンター内の様子



「ドレミファボール」のプレイ風景



「Go To トラベル」フォトスタジオ



「ひもくじ」ワゴン